

鳥取市出身の叙情派ピアニスト——待望の共演！

# 第39回 鳥取市交響楽団 定期演奏会

ヴェルディ  
歌劇「運命の力」序曲

グリーグ  
ピアノ協奏曲 イ短調

リムスキイ=コルサコフ  
交響組曲「シェエラザード」



指揮  
高野秀峰

東京オペラプロデュース 指揮者  
桜美林大学非常勤講師

渡邊繪理子  
ピアノ

鳥取市出身 桐朋学園大学卒業



管弦楽 鳥取市交響楽団



2017年10月15日日

鳥取市民会館大ホール  
14:00開演 (13:30開場)

全自由席：一般 1,500円 (当日 2,000円)

高校生以下 500円 (当日 1,000円) 未就学児無料

主催：鳥取市交響楽団

後援：鳥取市教育委員会、鳥取市文化団体協議会、朝日新聞鳥取総局、  
山陰中央新報社、産経新聞鳥取支局、新日本海新聞社、中国新聞鳥取支局、  
毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、TSK山陰中央テレビ、BSS山陰放送、  
日本海テレビ、いなばぴょんぴょんネット、日本海ケーブルネットワーク

プレイガイド 鳥取市民会館、とりぎん文化会館、鳥取市文化センター、アコヤ楽器店  
西川ピアノ調律所、トスク本店、鳥取大丸、今井書店（吉成店、湖山店）

お問い合わせ 鳥取市交響楽団事務局長 井上拓也  
電話 090-4807-1339 takuinou@gmail.com

無料託児サービスあり 前日までに電話 090-1681-5985 (小林) まで

# しなやかで叙情的な響きを生み出す ピアニスト渡邊絵理子さん。

演奏への意気込みを聞きました。

## ソリストインタビュー

——グリーグのピアノ協奏曲は大好きな曲だそうですね。

大学生の頃、コンチエルトを勉強する機会があり、その時に選んだのがこのグリーグのピアノ協奏曲でした。

弾けば弾くほどこの曲の魅力を感じた、思い出の曲です。そのグリーグを故郷の鳥取で地元オーケストラと共に演ることができます嬉しく思います



——この曲の中で、一番好きなところは?

曲全体が好きですが、一箇所挙げるとすれば、第3楽章の中

間部、フルートのソロを受け継いでピアノが奏でるところです。グリーグの生まれ故郷であるノルウェーの山々やフィヨルド、澄んだ空気など、広大な自然の中にいるような気持ちで演奏しています。また、ピアノとオーケストラの絡みで温かさを感じられるのもこの部分の好きなところです。第2楽章の深い叙情性も心に沁みます。

——本番ではどんな演奏をしたいですか。

コンチエルトの中でも特に有名で、冒頭部分は耳にされたことがある方が多いでしょう。そこから展開される、この曲のもう纖細さと力強さの両面を表現できたらと思います。また、オーケストラとのアンサンブルも楽しんで演奏したいです。

鳥取市出身。鳥取北中。鳥取東高を経て、桐朋学園大学音楽学部音楽科卒業。在学中より小学校、高校、病院などで訪問コンサートを行い、演奏会に多数出演。

2009年鳥取市民会館自主事業ジョイントコンサート出演。2014年、2016年東京、鹿児島、2016年10月には鳥取文化ホールにてピアノジョイントリサイタルを開催し好評を博す。

現在、ソロ、伴奏ピアニストとして演奏活動をしながら後進の指導にあたっている。これまでに山根万里、西尾悦子、藤本紀子、広瀬康各氏に師事。

## ピアノ協奏曲イ短調 グリーグ

ノルウェーの作曲家グリーグの代表作で、古今のピアノ協奏曲の中でも特に人気の高い名曲。1868年、グリーグ25歳の時に作曲された。

曲の冒頭は、ティンパニが地鳴りのように響いてきて、その頂点に達したところでピアノが流れ落ちるようなフレーズでドラマティックに登場するが、これはフィヨルドに注ぐ滝の流れを表現したものともいわれている。また、大ピアニストで作曲家のフランツ・リストが、グリーグと会った際、この曲を初見で弾いて「これが本当の北欧だ!」と絶賛したというエピソードが伝わっている。

曲は3楽章からなるが、北欧の情趣あふれる透明な叙情性と、大自然を思わせる雄大なフレーズが相まって展開していく。

\*

## 交響組曲「シェエラザード」 リムスキー=コルサコフ

有名な「千一夜物語」(アラビアン・ナイト)をテーマとした絢爛豪華なオーケストラの大絵巻。作曲者自身この曲に寄せて、次のようなプログラムを書いている。

「シャリアール王は、王妃の不貞に腹を立て、彼のもとに差し出された若い女性を一夜限りで処刑するという非道を繰り返していた。しかしシェエラザードは、王に興味ある物語を話して聞かせ、千一夜のあいだ命をながらえる。彼女の聰明さや誠実さに心打たれた王は心を改め、彼女を妃に迎えて名君として国を統治するようになった。」

冒頭の荒々しいシャリアール王の主題と、優しさあふれるシェエラザードの主題が、物語の語り部のように度々現れ、音楽によるストーリーが展開されていく。エキゾティックなメロディの美しさやダイナミックな迫力に溢れ、数あるオーケストラ作品の中でも最も華やかで豪華で人気の高い作品となっている。

全曲を通じて現れる様々な楽器のソロがこの曲の魅力の一つだが、特にシェエラザードのテーマを奏でる独奏バイオリンは、美しく纖細な表情や協奏曲のように活躍する部分もあり、大きな聴きどころとなっている。(ソロヴァイオリン:久保田昌平)



ピアノ  
渡邊絵理子



指揮  
高野秀峰

東京生まれ 明治学院大学及び武蔵野音楽大学卒業。作曲を鈴木輝昭、指揮をクルト・レーデル、ステファノ・マストランジェロの各氏に学ぶ。2001年にチェコ国立モラヴィア・フィルハーモニーを指揮し、ヨーロッパにデビュー。新国立劇場の副指揮者を経て、東京シティフィルハーモニック管弦楽団、東京オペラプロデュース、オーケストラ・アンサンブル・トウキョウなどを指揮している。

桜美林大学芸術文化群講師、日本作曲家協議会会員。東京芸術財団音楽顧問。鳥取市交響楽団の定期演奏会で、2009年以来毎年客演を務めている。昨年12月の「県民による第九鳥取公演」の名演も記憶に新しい。

## 演 奏 鳥取市交響楽団

鳥取県東部で活動するアマチュアオーケストラ。1976年に発足。年1回の定期演奏会のほか、「県民による第九公演」のオーケストラ演奏も担う。地域のオーケストラとして、鳥取在住のソリスト・音楽家との共演や、地域の音楽イベントへの出演等にも積極的に取り組んでいる。

団長／上萬雅洋 コンサートマスター／久保田昌平 団員60名